



2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年8月10日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社 シモジマ
コード番号 7482 URL <https://www.shimojima.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 笠井 義彦
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役上席執行役員経営企画本部長 (氏名) 小野寺 仁 TEL 03-3862-8626
四半期報告書提出予定日 2023年8月10日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	14,177	9.0	810	-	900	-	593	-
2023年3月期第1四半期	13,008	14.0	△35	-	10	-	△22	-

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 702百万円(-%) 2023年3月期第1四半期 △21百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	25.47	-
2023年3月期第1四半期	△0.97	-

(注) 2023年3月期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2023年3月期第1四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第1四半期	39,556	33,126	83.6	1,418.79
2023年3月期	40,023	32,679	81.5	1,399.70

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 33,061百万円 2023年3月期 32,616百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	-	11.00	-	11.00	22.00
2024年3月期	-				
2024年3月期(予想)		11.00	-	11.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	57,600	4.7	2,100	4.4	2,400	0.5	1,600	3.7	68.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

（注）詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期1Q	24,257,826株	2023年3月期	24,257,826株
② 期末自己株式数	2024年3月期1Q	955,429株	2023年3月期	955,338株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期1Q	23,302,425株	2023年3月期1Q	23,271,135株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日）における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に移行し、入国者の水際対策が解除されるなど、制限の緩和が進み、国内の消費活動は回復基調にありました。しかしながら、地政学的リスクの高まりに加えてエネルギー価格や原材料価格の高止まり、為替や金利の振れ幅増大など、世界規模で不確実な要素が幾つも存在し、景気の先行きは不透明な状況にあります。

当社グループが属する業界においては、脱プラスチックの流れはますます加速しています。また、インターネット通販市場の拡大や、催事・イベント関連資材の需要が回復するなど、消費行動は、引続き大きく変化しています。

このような状況のもとで、当社グループは、「“パッケージ×サービス”でお客様に元気を届けるトータルパートナーを目指す」と定めた長期ビジョンの実現に向けて、中期経営計画に沿った活動を継続しております。

(販売部門別活動の状況)

当社は、営業販売部門、店舗販売部門、通信販売部門の3つのルートを有しています。

営業販売部門及び店舗販売部門では、環境配慮型商品や既製品の主力商品の拡販と特注品の受注活動に注力いたしました。さらに、店舗外商活動においては、新規深耕開拓を中心に販路を拡大させました。また、全国的に催事・イベントが復活したことやインバウンド顧客が増加したことにより、関連資材の需要が拡大したことで、売上は増加いたしました。

通信販売部門では、「シモジマオンラインショップ」において、会員数は順調に伸び、注文単価も上昇しました。飲食店や小売店向けの資材が回復し、さらにメーカー直送に特化した「シモジマモール」の出品社数や掲載商品点数が増えたこともあり、売上は増加いたしました。

これら各ルートの販売活動効果により、グループ全体の売上は、前年同期比で引続き増加いたしました。

利益面では、売上の堅調さに加え、物流費をはじめとする販売費及び一般管理費を抑制する成果が表れたことで、各利益も前年同期比で増加いたしました。

この結果、連結売上高は141億77百万円（前年同期比9.0%増）、連結営業利益は8億10百万円（前年同期は連結営業損失35百万円）、連結経常利益は9億円（前年同期は連結経常利益10百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億93百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失22百万円）となりました。

(商品セグメント別活動の状況)

当社事業は主に紙製品事業、化成品・包装資材事業、店舗用品事業の3つの商品セグメントで構成されています。当期は、各セグメントにおいて催事やイベントが復活したことにより関連資材の需要が拡大いたしました。

[紙製品事業]

紙製品事業は、当社創業以来の主力事業としてオリジナルブランドの紙袋、包装紙、紙器を中心に販売しております。テイクアウト・フードデリバリー資材、通販資材は引続き好調で売上は増加いたしました。その結果、紙製品事業全体の連結売上高は24億53百万円（前年同期比5.2%増）となりました。

[化成品・包装資材事業]

中核の化成品・包装資材事業においては、市場と顧客ニーズが適合した環境配慮型商品の開発と拡販に積極的に取り組みました。小売業、飲食業の需要が回復し、主力商品を中心に売上は増加いたしました。その結果、化成品・包装資材事業の連結売上高は83億24百万円（前年同期比12.4%増）となりました。

[店舗用品事業]

店舗用品事業においては、「店舗及びオフィスで使用するあらゆるものが揃う」をコンセプトに取り組んでおります。当期は、飲食業向け資材が堅調に推移しました。さらに、グループ会社の株式会社グローバルブランドの売上が大きく増加したことにより、連結売上高は33億99百万円（前年同期比3.9%増）となりました。

(当四半期における重要なトピックス)

1. 阪神甲子園球場で「シモジマデー」を開催

当社がスポンサー契約をしている阪神タイガースの5月3日の公式主催試合をシモジマの冠協賛試合「シモジマデー」として昨年に引続き開催いたしました。

当社は、同球場における環境保全プロジェクト「KOSHIEN “eco” Challenge」のオフィシャルエコパートナーとして、阪神電気鉄道株式会社及び同プロジェクトの協賛企業と共に、環境保全への取組みを推進しています。当社では、阪神甲子園球場で回収したプラスチックカップの再生原料を一部使用した「リサイクルごみ袋」を製造し、2022年シーズンから同球場で使用する「循環型リサイクル」の取組みを行っております。

今回の「シモジマデー」は、球場内でのビジョン放映やポスターの掲示を通して、当社の環境保全への取組みを紹介する良い機会となりました。

2. シモジマレトロデザインがユニクロ浅草店の「UTme！」に登場

ユニクロ浅草店のTシャツプリントサービス「UTme！」に、当社のレトロデザインを提供いたしました。

ユニクロ浅草店では、当社のオリジナルレトロデザイン65種類を取り扱っており、多くのお客様からご好評を頂いております。

3. 小学校副教材「未来クリエイター」を全国767校に配布

当社は、株式会社ソーシャルサービスが出版する小学校向け副教材である冊子『未来クリエイター 未来をつくる 環境にやさしくらしにどきどき』に特別協力しました。

この冊子は、プラスチック製品の特徴や廃棄後のゆくえ、プラスチックごみが環境に与える影響やプラスチックごみを減らすために私たちに出来ることについて小学生に考えてもらうための教材となっています。

当社は、プラスチック製の包装資材を扱う企業として、将来を担う子供達に、環境に対して考える機会を提供することが重要であると捉えております。

この冊子は、事前アンケートで希望された全国16都道府県の小学校767校に6月下旬から順次配布され、約8.1万部が小学5・6年生の社会科や家庭科の授業で副教材として活用されるほか、7月5日から1年間、シモジマホームページのバナーからご覧になれます。

URL : https://mirakuri.sakura.ne.jp/mirakuri/book/#target/page_no=1

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は395億56百万円となり、前連結会計年度末に比べて4億67百万円減少しました。流動資産は205億53百万円となり、9億6百万円減少しました。主な要因は、棚卸資産が3億58百万円増加した一方で、現金及び預金が11億99百万円、売上債権が2億64百万円それぞれ減少したことによるものであります。固定資産は190億2百万円となり、4億39百万円増加しました。主な要因は、建設仮勘定が11億93百万円減少した一方で、建物及び構築物が16億12百万円増加したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は64億30百万円となり、前連結会計年度末に比べて9億13百万円減少しました。流動負債は50億49百万円となり、10億26百万円減少しました。主な要因は、未払法人税等が5億1百万円、未払消費税等が2億79百万円、賞与引当金が2億17百万円それぞれ減少したことによるものであります。固定負債は13億80百万円となり、1億12百万円増加しました。主な要因は、長期リース債務が99百万円増加したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は331億26百万円となり、前連結会計年度末に比べて4億46百万円増加しました。主な要因は、利益剰余金が3億37百万円増加したことによるものであります。この結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ、2.1ポイント上昇し、83.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年5月11日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,140	5,940
受取手形及び売掛金	6,989	6,607
電子記録債権	1,001	1,119
商品及び製品	5,274	5,694
原材料及び貯蔵品	596	535
その他	473	672
貸倒引当金	△15	△15
流動資産合計	21,460	20,553
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,783	5,396
土地	7,761	7,760
その他（純額）	1,994	839
有形固定資産合計	13,539	13,995
無形固定資産		
のれん	413	382
その他	1,205	1,198
無形固定資産合計	1,619	1,580
投資その他の資産		
その他	3,497	3,510
貸倒引当金	△93	△84
投資その他の資産合計	3,403	3,425
固定資産合計	18,562	19,002
資産合計	40,023	39,556

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,010	3,021
1年内返済予定の長期借入金	6	6
未払法人税等	831	329
賞与引当金	451	233
役員賞与引当金	97	11
その他	1,679	1,447
流動負債合計	6,075	5,049
固定負債		
長期借入金	76	74
退職給付に係る負債	352	368
その他	839	937
固定負債合計	1,268	1,380
負債合計	7,343	6,430
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,405	1,405
資本剰余金	1,299	1,299
利益剰余金	36,834	37,171
自己株式	△1,063	△1,064
株主資本合計	38,474	38,811
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	320	332
繰延ヘッジ損益	6	101
土地再評価差額金	△6,195	△6,195
退職給付に係る調整累計額	10	10
その他の包括利益累計額合計	△5,858	△5,750
非支配株主持分	63	65
純資産合計	32,679	33,126
負債純資産合計	40,023	39,556

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	13,008	14,177
売上原価	9,085	9,525
売上総利益	3,923	4,652
販売費及び一般管理費	3,958	3,841
営業利益又は営業損失(△)	△35	810
営業外収益		
受取利息	3	0
受取配当金	1	1
受取賃貸料	48	50
貸倒引当金戻入額	5	8
その他	53	41
営業外収益合計	112	102
営業外費用		
支払利息	0	0
為替差損	56	-
不動産賃貸原価	5	5
その他	5	6
営業外費用合計	66	12
経常利益	10	900
特別利益		
保険解約返戻金	5	1
特別利益合計	5	1
特別損失		
解体撤去費用	28	-
保険解約損	11	-
特別損失合計	39	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△22	901
法人税等	△2	306
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△20	595
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	1
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△22	593

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△20	595
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△34	12
繰延ヘッジ損益	33	95
退職給付に係る調整額	0	0
その他の包括利益合計	△0	107
四半期包括利益	△21	702
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△23	701
非支配株主に係る四半期包括利益	1	1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	紙製品	化成品・ 包装資材	店舗用品				
売上高							
外部顧客への売上高	2,332	7,402	3,273	—	13,008	—	13,008
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	6	—	316	322	△322	—
計	2,332	7,408	3,273	316	13,331	△322	13,008
セグメント利益	127	273	13	4	418	△454	△35

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、内容は物流事業であります。
 2. セグメント利益の調整額△454百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。
 全社費用は、主に、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。
 4. 前第2四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前第1四半期連結累計期間については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	紙製品	化成品・ 包装資材	店舗用品				
売上高							
外部顧客への売上高	2,453	8,324	3,399	—	14,177	—	14,177
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	6	—	342	348	△348	—
計	2,453	8,330	3,399	342	14,526	△348	14,177
セグメント利益	269	740	164	19	1,194	△384	810

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、内容は物流事業であります。
 2. セグメント利益の調整額△384百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。
 全社費用は、主に、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(連結子会社の吸収合併)

当社は、2023年2月10日開催の取締役会において、当社の連結子会社である株式会社エステシーを吸収合併することを決議し、同日付で合併契約を締結し、2023年7月1日付で吸収合併しております。

(1) 取引の概要

① 結合当事企業の名称及びその事業内容

結合企業の名称	株式会社シモジマ
事業の内容	卸売販売
被結合企業の名称	株式会社エステシー
事業の内容	海外商品の仕入れ

② 企業結合日

2023年7月1日

③ 企業結合の法的形式

当社を存続会社とする吸収合併方式とし、株式会社エステシーは解散しております。

④ 結合後企業の名称

株式会社シモジマ

⑤ その他取引の概要に関する事項

当社グループにおける経営の効率化及び意思決定の迅速化を図ることを目的としております。

(2) 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。